

E 技術面アンケート補足資料

E-1 うっすらと二枚爪になっていて爪先が爪床にくっついていての方への施術方法

E-1
うっすらと2枚爪になっていて爪先が
爪床にくっついていての方への施術方法



A：爪だけでなく趾先の状態の観察も必要です

ご高齢 爪白癬等の疾患は陰性 段になって生えてくる

趾先が痩せており、末節骨が上がっているように見受けられますので、リストア対象の爪ではないかと思います

ただ、小島先生にもご確認いただいたところ“レトロニキア”の疑いがあるのではないかとのことです。

“レトロニキア”とは、

【症状】

爪が伸びず、新しい爪が古い爪を押し上げるように成長

爪が何層にも厚く重なる

根元の腫れと痛みが生じる

【原因・きっかけ】

靴による圧迫や、スポーツ等による爪への繰り返し加わる力（微小外傷）が主な原因

これにより爪母（爪の根元）と爪甲の位置関係が狂ってしまうことで起こる

レトロニキアは比較的まだ認知度が低く、「単なる爪甲の肥厚」と診断されてしまうケースもあり、この場合は、ネイルリストアが適用だが難治になる場合もある

“レトロニキア、かどうかというのは医師の診断をいただかないとわかりませんが、リストア対象の爪かどうか確認する為にも、趾先の状態の確認が必要かと思います。

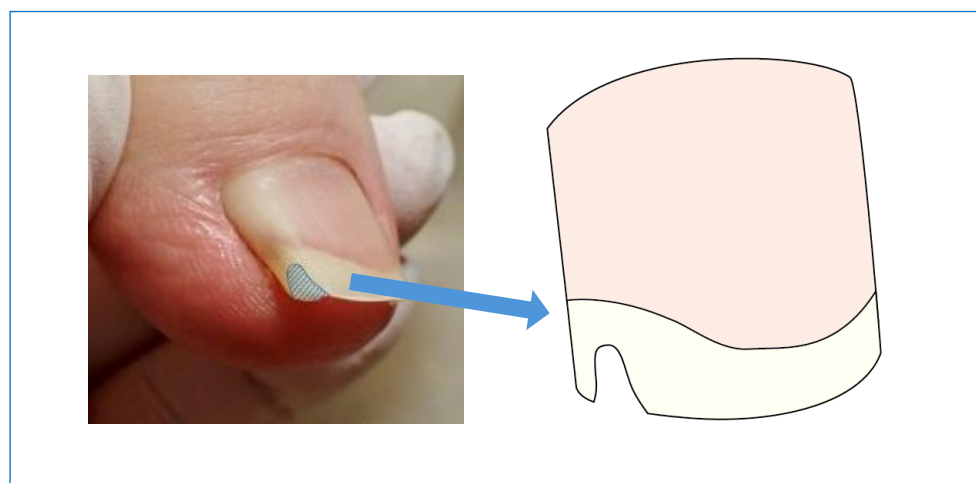
『スリムダイヤモンド』や『スリムオーバルカーバイト』を使用し、爪下の角質をしっかりと削り、技術者の指先を爪先の下に入れ込んで触れてください。

もし、技術者の指で触ることが難しいようでしたら、巻き爪ケアツールのスプーン部分で爪下の皮膚部分を押し、確認すると趾先の中の方に硬さを感じたり、場合によってはその部分を押しえと痛がられたりします。

そう言った確認が出来れば、お客様にも状況をご説明し、ご納得いただいた上で、リストアでのケアを開始することが出来るのではないかと思います。

E-2 ホッチキス型巻き爪の工夫、補整器具の選択ポイント

E-2 ホッチキス型の方にテンションをかける際の注意点



A：プリパレーションがポイント

厚みがある場合は、重度のテキスト（2025年3月改定版 P5）にも記載していますように、プリパレーション時、巻きの部分を重点的に削る必要がございます。

又、補整器具の装着角度もしっかりと見極めてください。

テンション時には『モスキート』で巻き部分をつぶすようにテンションをかけるとしっかりテンションがかかります。

又テンション部の割れ予防としては巻き部分をイラストに印しているように少し爪先をえぐるように削ることでテンション時の圧を軽減させ、且つ、しっかりテンションがかかります。

この爪先を少しえぐるように削る方法ですが、今回お集りのような熟練されたトレーナーの皆様は行っていただいても問題ございませんが、初心者の方へは爪の割れや、皮膚の傷つけが懸念されますので、セミナーでお伝えはすることはお控えください。

E-3 ジェルの硬化が遅く軟化過ぎて流れる

A：ベイターを多すぎず、少なすぎず、ムラなく合わせることが大切

E-4 根元上げの期間、重度の補整動画が見たい

A：根元上げの期間は個人差がございます。重度の補整動画はDVDをご覧ください。

E-5 なかなか伸びない爪への対応

E-5 なかなか伸びない爪への対応



A：趾先に強い衝撃が加わるスポーツをしているかたへ補整器具の装着はお勧めしません

- ・バレエダンスをしているお客様
- ・来店時に前回取り付けた補整器具が爪と一緒に割れて、外れてしまっている
爪が全く伸びないわけでは無いが途中で割れるなどの理由でしっかり伸びない

アドバイス

基本的にバレエダンスを行っている方への補整器具の装着はお勧めできません。

補整器具を装着すると爪は硬く強くなるが、自爪のように弾力があるわけではないので、ダンスによる強い衝撃で爪ごと割れてしまいます。

お写真を拝見したところ、恐らく過去に過度の圧迫や、内出血、又それに伴い、爪が抜け落ちるなどで、すでに趾骨の末節骨があがり、リストア対象の爪になっています。

幸い、お痛みはないとの事なので、この方のご希望が“爪を伸ばす、”と言う事であれば、ケアの方法としましては、やはりリストアとしてのケアが必要かと思います。

しかし、現在のバレエを続けていくのであれば、なかなか趾先の環境が過酷かと思えますので、この方の希望にあった優先順位をしっかりとカウンセリングでご確認いただき、ケアを進めていかないと、ケアに対する不満にもつながりかねないと思います。

バレエが優先なのであれば、一旦、補整は控え、爪が末節骨にあたりつかえてしまわないよう、爪の長さ調節やテーピング指導などのケアを行ってください。

また、自爪は衝撃をうけてもしなることができる構造をしているので、ネイルビルダーやネイルオイルを頻繁に塗って傷んでしまった自爪は強くすることをお勧めしましょう。

		
ビルダー未使用時		半年後

E-6 外反母趾の方や再発を繰り返す方への対応

A: このようなケースでは外反母趾の状態を少し理解する必要があります

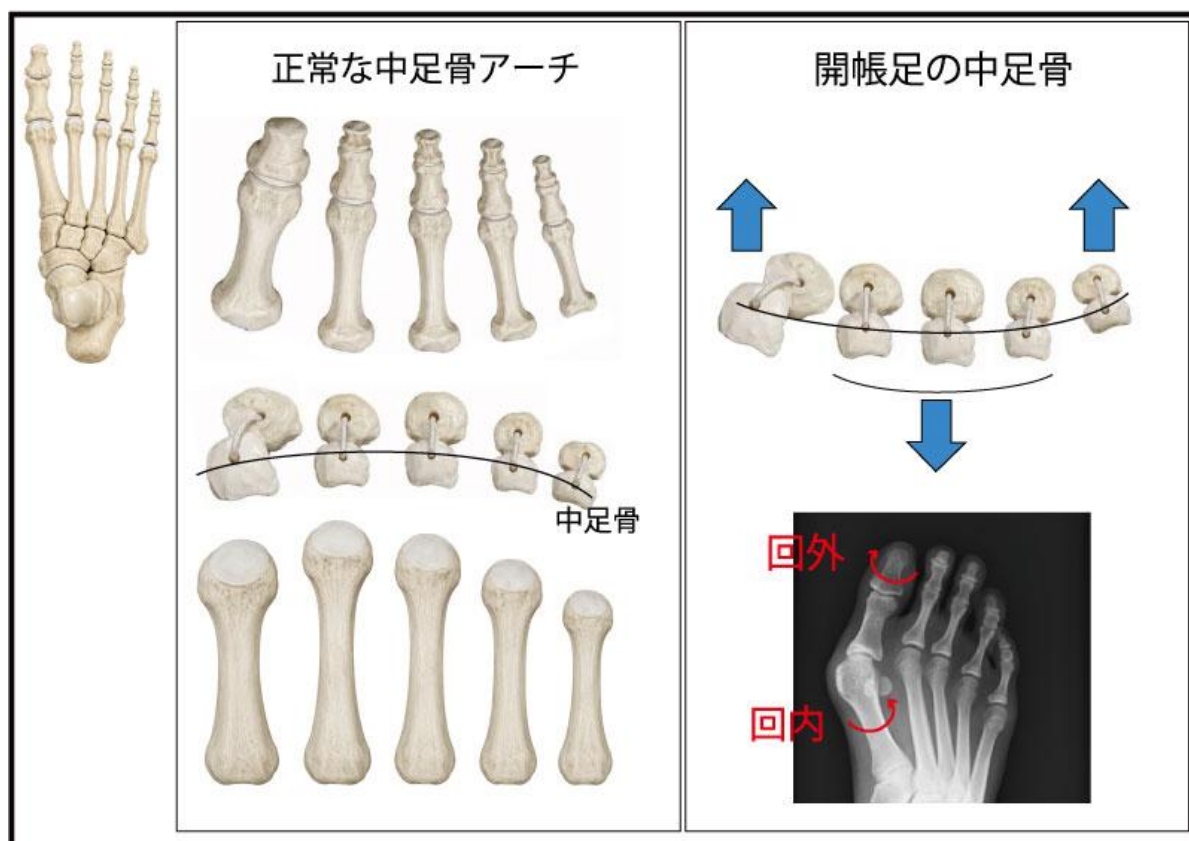
＜まずは、一般的な考え方を紹介します＞

外反母趾になる原因は、一般的には靴や歩行などの外的要因や、足の構造的な要因が重なり、横アーチが低下して開帳足となることで、第1中足骨が内側へ開き（内反）、さらに回内することにあります。（下図参照）

その結果、本来足底側を向いている第1中足骨頭の一部が内側へ回り込み、骨が飛び出しているように見えるようになります。

さらに症状が進行すると、内側へ突出した中足骨頭が靴と繰り返し擦れることで、防御反応として骨膜が肥厚したり、滑液包（かつえきほう：骨と皮膚の摩擦を和らげるクッションの役割をする袋）に炎症が起こって腫れたりするため、出っ張りはさらに大きく見えるようになります。

また、重症例では長期間にわたる機械的刺激や関節への負荷により、中足骨頭の局所的な骨肥厚や骨棘（こつきょく）が形成されることもあります。



<外反母趾と巻き爪の関係>

外反母趾では歩行時に足趾の腹で正しく踏みしめることが難しくなります。

その結果、爪に本来加わる「踏み込みによる適度なたわみ」が十分に起こらない。また「爪の端で地面を踏みしめるような歩行になりやすい」ため、巻き爪は非常に再発しやすい状態になります。

そのため、外反母趾による巻き爪は、外反母趾の程度に応じて対応を考える必要があります。

*軽度の外反母趾の場合の対策

骨肥厚や骨棘などの変化が認められない軽度の外反母趾では、PG社の五本趾ソックスを使用し、低下した足の横アーチを改善することで、巻き爪の再発リスクを下げる事が期待できます。

外反母趾の改善には時間を要しますが、足の機能や歩行バランスの改善にもつながるため、お客様にとって大きなメリットとなります。

また、その改善期間中は、巻き爪の状態に応じた補正を行ってください。

*重度の外反母趾の場合

骨肥厚や骨棘は骨のリモデリングによって形成された新しい骨なので、自然に吸収されることはほとんどありません。

従って、薬・注射・ストレッチ・矯正器具・リハビリを行っても元の骨の状態に戻ることはありません。ただ、全く無意味ということは無いのでストレッチや五本趾ソックスを履くことで症状を和らげることは可能です。

しかし、この場合には巻き爪補正のゴールを「再発0にする」というのではなく、痛い状態を回避して「快適な日常生活を送れる」ように私たちがお手伝いをする事を目標としてください。

E-7 副爪の処置、魚の目の処置を見たい

A：副爪（ふくそう）



日本のインターネット上では、副爪を「爪ではなく、皮膚が角質化して硬くなったもの」と説明し、深く削るケアを推奨している情報も数多く見受けられます。しかし・・・

海外の文献では Accessory nail of the fifth toe（第5趾副爪）

double nail of the fifth toe（小趾の二重爪）

petaloid toenail（花弁状趾爪）

として紹介されており、これは角質では無く爪として扱われています

上図のような爪は、皮膚が角質化して硬くなったものではありません。

もしもこのような状態の爪を角質と判断し、一律に深く削る処置を行えば、危険を伴う可能性があります。

このような爪のケアには、十分な知識と適切な判断が必要です。

副爪のケアは、症状や原因によって処置方法が異なります。見た目が似ていても状態によって適切な対応は異なるため、一律の方法をご案内すると、かえって症状を悪化させてしまう可能性があります。

この内容は「小趾爪の修復」セミナーで、実際の症例を交えながら詳しく解説しております。受講された皆様との公平性を考慮し、個別にケア方法をお伝えすることは控えさせていただきます。

また魚の目のケア法も同じく「角質ケア」のセミナーがございます。

ご興味ございましたら、ぜひ「小趾爪の修復」「角質ケア(ハイブリッド)」のセミナーをご受講いただけますと幸いです。

E-8 オルソフラットジェルを継続的に使用した場合の爪へのダメージは無いか、または継続的に使用する場合の注意点

A：オルソフラットジェルは石油由来の原料から作られた人工爪材料です。そのため、爪に対して全く影響がないとは言えません。

分かりやすく例えると、ジェルネイルと似た性質の材料なので、ジェルネイルでアレルギーや強いトラブルを経験された方は、使用を控えてください。

一方で、オルソフラットジェルは爪への負担をできるだけ抑えられるよう設計されており、現時点では弊社において継続使用による重大なトラブルの報告は受けておりません。ただし、どのような材料であっても、すべての方に将来にわたりトラブルが起こらないと断言することはできません。

また、人工爪によるダメージの多くは、装着していることよりも、リムーブ（除去）の際に自爪を削り過ぎてしまうことが原因です。そのため、取り付け時よりも、除去やメンテナンスの際に自爪を削り過ぎないように十分注意することが大切です。

継続して使用する場合は、

- *必要以上に自爪を削らないこと。
- *定期的に爪の状態を確認すること。
- *爪に異常を感じた場合は使用を中止し、必要に応じて専門家へ相談すること。
- *自爪に著しいダメージが認められた場合は、一旦オルソフラットジェルをリムーブし、ネイルビルダーを1日2～5回塗布しながら約1か月間経過を観察してください。その後、爪の状態を確認したうえで、再装着するかどうかを判断してください。

どのような人工材料にもメリットとデメリットがあります。大切なのは、爪の状態を正しく見極め、必要な期間だけ適切に使用することです。

オルソフラットジェルは、巻き爪による痛みの軽減や快適な日常生活をサポートするための補助材料です。正しい知識と技術のもとで適切に使用することで、爪への負担を最小限に抑えながら、その効果を十分に発揮することができます。

E-9 剥離しやすい爪へのアプローチ法と剥離そのものを改善に導く方法

A：剥離している理由を見極める必要があります

剥離する多くの理由を下記にまとめます

- ① 長期間にわたり過度なテンションを加え続けた、またはプリパレーション時に必要以上に自爪を削ってしまった
- ② 過去に爪下の出血があった
- ③ 爪が薄すぎる、またはネイルベッドエピテリウムと爪床の結合が緩すぎるので少しの刺激で爪が剥離する

<対処法>

- ① まず補正時のテンションを見直してください。
また、オルソフラットジェルへ切り替えることも有効です。それでも改善が見られない場合は、前述のように一旦リムーブし、自爪のケアを行ってください。
- ② 爪下に出血があった箇所は必ず爪が剥離します。しかしそれは爪が伸びてその部分が排出されれば問題はありません
- ③ 補正時のテンションを弱くして装着してください。もしも数回の補正で中程度の巻き爪になればオルソフラットで補正を試みる

E-10 オルソフラットジェルⅡの最適な厚みどのように決めますか？

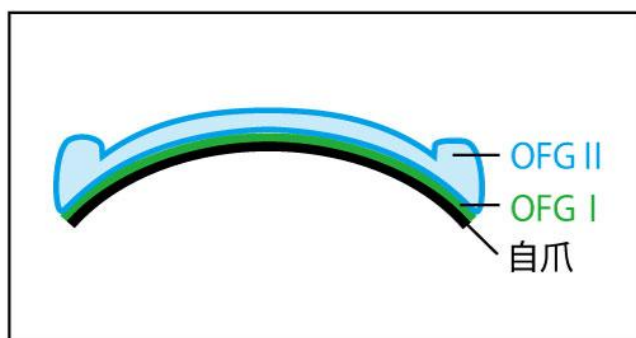
A：テンションを加えたい強さと爪の厚みにより異なります。

オルソフラットジェルⅡ（OFGⅡ）の厚みは、加えたいテンションの強さや、自爪の厚み・硬さによって異なります。

大前提として、甘皮付近の巻き爪の角度が50度以下になってからOFGⅡを使用してください。それ以上巻きが強い場合は、期待するテンションが十分に得られないことがほとんどです。

下図のように、爪の両端に形成するOFGⅡの厚みが増すほど、加わるテンションは強くなります。

ただし、最適な厚みは自爪の厚みや硬さによって異なるため、一律に定義することはできません。下図を参考にしながら厚みを調整し、お客様一人ひとりに最適な厚みを見極めてください。



E-11 厚みがあり、硬くて動かない爪の下地処理、及びプリパレーション

A：根元上げコースのテキスト、プリパレーションを参考にしてください